

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第4区分

【発行日】平成28年3月17日(2016.3.17)

【公開番号】特開2015-111968(P2015-111968A)

【公開日】平成27年6月18日(2015.6.18)

【年通号数】公開・登録公報2015-039

【出願番号】特願2013-252798(P2013-252798)

【国際特許分類】

H 02 J 50/00 (2016.01)

H 02 H 9/04 (2006.01)

【F I】

H 02 J 17/00 B

H 02 J 17/00 X

H 02 H 9/04 B

【手続補正書】

【提出日】平成28年1月29日(2016.1.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0085

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0085】

図16は、本実施の形態における過電圧保護回路214の第2の構成例を示している。

図16の第2の構成例では、図15の第1の構成例に対して、過電圧保護回路214Aにおいて、コンデンサ301A, 302Aに代えて、抵抗器301Ar, 302Arを用いている。また、過電圧保護回路214Bにおいて、コンデンサ301B, 302Bに代えて、抵抗器301Br, 302Brを用いている。過電圧保護回路214Aの回路構成(回路定数)は、給電方式が上述のA方式である場合に適した構成となっている。具体的には、抵抗器301Ar, 302Arの抵抗値がX[]となっている。また、過電圧保護回路214Bの回路構成(回路定数)は、給電方式が上述のB方式である場合に適した構成となっている。具体的には、抵抗器301Br, 302Brの抵抗値が、抵抗器301Ar, 302Arの抵抗値とは異なるY[]となっている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0088

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0088】

例えば、通信部206が、図15または図16に示した構成例のように、複数の通信回路206A, 206Bを有していてもよい。図15または図16に示した構成例において、制御部205は、方式判定部209によって識別された給電方式に応じて、複数の通信回路206A, 206Bのうちいずれか1つの通信回路を選択的に用いるよう通信部206を制御する。制御部205は、給電方式に応じて、MOSFET303A, 304AまたはMOSFET303B, 304Bを選択的にONさせることによって、通信回路206A, 206Bを切り替え制御する。